

保姆と園兒との接觸と幼兒の興味

京都豊園幼稚園 馬場 定 一

幼稚園を如何に管理すべきかの全體に關する適當な書物を物色して丸善をあさつて居た中アットウフド女史の「幼稚園の理論及實際」(Kindergarten theory and Practice) というのを見附けたので早速讀

んで見た出版は一九一六年で少し古いけれど理論といふよりもむしろ實際の問題を學問的によりも實際的に、親切な行届いた書き振りで述べられてあるので、思はず大體目を通して見た、勿論内容に新らしい事も特別の點も見出されないが、實際家には痒い處へ手が届く感じがする事と思つたので譯し方はまづいけれど兎に角部分的に所々を紹介して見たと思つて貴重な紙面をお借するわけです。

保姆のなすべき第一の事は、幼兒との接觸點を見出す事である。勿論之は子供の興味の中に見出さるものであつて、保姆は興味より、一層善き且つ豊富なる經驗であると信すべきものに誘導するのである。此の興味の發見には海圖やコンパスのやうな力

強い助けはない。元來子供等の興味は其以前の經驗に影響せらるゝものであるから此場合保姆の常識や洞察が其助けとなるわけである。

殖民地の仕事に成功して來た西の方の州の一保姆は次の様な事を語つて居る。是等殖民地の子供に保育を始むるに方つて、子供と接觸するのに非常なる困難を感じた。普通の幼稚園法の實施では全く平面的なものになつてしまつた。其子供等は茫然した、感じの鈍いものであつた。有ゆる方法を試みたけれども何等反應を認むる事が出来なかつた。所が或朝の出勤の時であつた。幼稚園の側まで行つて見ると、いつもの鈍い子供等の一群が、今日は全く別人の如く生々とした活潑な子供に變つて居つたのであつた。彼等はブリューバードと云ふゲームをやつて居たがそれは吾々から見ると全く無意味と思はれるやうなものであつたのに子供等は非常な興味と熱心を以てやつて居つたので、之れに就いて深く考へさ

せられたのであつた。子供等が這入つて來た時にブリューバードの遊び方を尋ねた處早速説明を得て直ぐ分つた。それから其朝の細目は注意深く作られて子供等に選ばれた他の遊戯も加へられたがブリューバードはその第一位を占めたのであつた。是以來是等の興味からもつと満足の出來る様なゲームや、唱歌又は恩物其他の材料を使つての遊戯等に漸次に誘導する事が出來て終に望み通りにこの小さい人々の團體を幸福な活氣のあるものとしてしまつた。此婦人は子供等と接觸の手段を見出したのであつた。そして最早之を用ふる事に躊躇しなかつた。

朝子供が幼稚園に集つて來てから始まる迄の二十分餘の時間は、保母の一日中最も尊き時機である。この時間は子供等が保母の看護から放れて居て保母にとつては、子供に最も密接に接觸する事の出來る時であり、最も價値ある研究の出來る時である。此の時機を怠り又は他の用に使つて居る様な保母には訖度いつか悲しみが來る筈である。之は保母にとつては、自分の仕事を準備する時でもなく、又帳簿をつける時でもない、或は又助手を連れて園内を巡視する時でもないので、子供が自分自身のものと感

じ得る時であり、そして又子供等の使用に神聖なるべき時間ではなければならぬ。又子供等にとりては、其可愛い手を先生の手の中に入れて暖かい握手を交換し、相互の暖かい朝の挨拶を交はすべき時間である。而して自分が出席して來たといふ事がどれ丈先生に今日一日の喜びを増させるものであるかを子供等に感ぜしめるものである。又子供等の仕事や遊戯をするに方つて眼の中には希望の光を興へ、心には暖かみを加へ其一日を通して子供等を喜ばせるあるものを贈るものである。

人はこの朝の個人的の挨拶の價値を幾ら強く云つても、強く云ひ過ぎるといふ事はないのである。朝の會集に對して贈る處の保母の形式的なお早うの言葉は、この個人的の挨拶に比ぶれば全く無意味なる虚禮に過ぎないのである。

子供等には此時間に於て、奉仕的に、園の仕事に楽しく従事させるがよい。或は植物に水をやるものもあり。室内の掃除をするものもあり、小さいホーやレーキを持つて其日のために砂場を準備するものもあるだろふ。子供等をして保母を愛せしむるためには、何か保母のためにさせなさい、と同様に子供に

幼稚園を愛させるためには、何か幼稚園の仕事をしたがよい、この事は子供をして所有の念を起さしめ、幼稚園を大切にする意識を起さしめるものである。奉仕の楷程は子供を保姆に結びつけるものである。然るにさうはさせないで、小さい子供が幼稚園の室に這入つてトボ／＼と會集中の自分の席に進み、日課の初まる迄、恰度床に打ちつけられてある木釘の様に坐つて待つて居る様は誠に可憐なものである。けれども之れに反して、この始業前の子供が或は仕事をしたり、或は遊んで居て、生命と活動の氣分に満ちて居る幼稚園に這入つて見て御覽なさい、どんなに清々した氣持になるであらふ！この時間まに於ける幼稚園の空氣は、實に其園に於ける保育の基調音きりょうおんを打つものであつて、夫を以て幼稚園自身を語るものである。

數年前の事であつた。保姆教育を受けた一婦人が其の子を或る有名な市の公立幼稚園に入れたのであつた。初めの程は其の子は熱心に満ち、楽しく通園して居たが、暫くしてから、其の子の興味は失せ足は漸次進まなくなり、遂に毎日すかしなためなければ行かぬ様になつて來た、其婦人は如何にして子供

の心がこんなに變つた事か、其理由を發見する事が出來ないので寧ろ一日か二日休ませたが好かるふと考へた。休ませてから二日目に先生が訪問に來て、正直にこんな意のことを話したのであつた。少し氣儘でいらつしやいますので、一寸困つた事が御座いましたのですよ、少し強過ちやうぎるとは思つたのでしたが、先達、いつもの氣儘が出たものですから一寸室から出しましたの、それ以來私から離れておしまいになつたので御座いますよ。婦人は先生の正直な説明に由つて、すつかり分つたのもう一度子供を幼稚園に出す事にした。けれども駄目であつた。どうしても矢張行きたがらないので、も一度先生との間を親密な状態に戻し度いと考へて、一つの目論見を思いついた。それは子供と一諸に花屋に行つて、花を一束買つて、翌朝それを先生の處へ持つて行かせる事であつた。他の子供と同じ様に、自分も先生に贈物をするのだといふので大變な喜びであつた。翌朝婦人はその子を連れて、幼稚園に行き、自分は悟られない様に室外に立つて居て、子供が如何な風に先生と和解するかを見て居つた。子供は嬉しうに這入つて行つた。先生は恰度子供に脊を向ける様に

椅子に掛けて居た、多分帳簿でもつけていたのだろう。子供は一寸の間先生の左側に立つて居つたが、もう待ちきれないと云ふ風で今度は後を廻つて右側に立つて稍憶病さうに花束を先生の前へ差し出すのであつた。先生は一寸見て「ハイ／＼そこへ丁寧置いておきなさい」と云つて再び仕事にかゝつた。子供の首はうなだれ頬は涙をせき止める爲めに振へて居た。この様子を眺めて居た婦人は心の沈むのを覺えた。そして遂に翌日他の幼稚園へ連れて行つた。この保母は保育の仕事に不注意なため遂にその捕るべき機会を逃がしてしまつたのであつた。

以上積極、消極の二例に由りて、朝の時間の子供と保母との接觸の價値は充分明かになつた事と思ふ。

抱かれない心いつばい

愛ちやんはおつむが痛い

よりそふてくる

(K 子)

十二月のはじめの可成寒い風の吹く或晩のこと
一露人の家庭を訪れた。家族は父と母と十歳になる姉と其の年の五月に生れた赤ちやん。

母の手から父の手へそして又客人である私の膝へうつされたその蔷薇色の頬の赤ちやん。抱いてみるとあまり身體が直接に感じられるのでよく見るとうすい地の短い簡単な肌着にも一つネルのコンビネーション(キチンと寸法をあはせずブラウ、な出來の)だけ、他にはチャン／＼一つ布一つない。

小さい手足をピン／＼自由にのびたりちぢめたりはづみ人形の様な活動振り。

私の通されたのは居間であつたからはじめはもしや着物を更へる所ではないかと思つてゐたがいつまでたつてもそんな様子はない。お元氣ですれと云ふと、もう足をはこびますよ、とお父さんに支へられて可愛いわんよを交り番に動かしてゐる。半年の赤ちやん、冬のよなかに。

もし日本の子だつたらチル幾枚わたいれちやん／＼は勿論幾重にもまきつけたあのおむつ。身動きすらようやく、なるほど。と私は思つた、

日本の赤ちやんは着すぎますね私達は國でも室内はこれ以上きせません。とお父さんの説明であつた。勿論室の中は(火鉢で)充分に暖められてはあつた。